

臨地実習における「看護技術の習得状況」の実態 (2) — 学生への3年間の調査から —

A Research of the Actual Condition of the Learning Situation of Nursing
Skills in Clinical Practice (2)

— By the Investigation following Three Years —

小島 洋子 三輪木君子
KOJIMA Yoko MIWAKI Kimiko

今福 恵子 遠藤 貴子 永谷 実穂
IMAFUKU Keiko ENDO Takako NAGATANI Miho

I はじめに

今日、看護を取り巻く情勢の変化は、看護基礎教育に対する期待として、看護実践能力育成の充実を求めている。

先の「臨地実習における“看護技術の習得状況”の実態 (1) — 学生用技術ノート —」でも述べられているが、日本看護協会の2002年新卒看護師の「看護基本技術に関する調査¹⁾」で、臨床で求められている看護実践能力と新卒者の能力との格差が大きいことを指摘している。また、2003年3月に文部科学省は、「看護教育のあり方に関する検討会」の報告書として「大学における実践能力の育成の充実に向けて²⁾」を出している。どちらの報告書も、看護基礎教育において、最低限必要な知識と技術とは何かを明らかにし、卒業時に独力あるいは適切な指導下で看護ケアが実践できるように、各養成校が努力すべき事を示した内容といえる。医療技術が進歩し、医療現場が複雑化する中で、基礎・基本となりうる技術とは何かが問われているともいえる。

これを受けて当校看護学科では、2002年4月より「在り方検討委員会」を立ち上げ、教員全体で、当校における看護技術教育のあり方を検討することになった。そして2年間にわたって4つのグループに分けて検討を重ねた結果、2・3グループは、看護実践能力の育成への1つの取り組みとして「学生用技術ノート」を作成した。そして、16年度より試行した。試行に先立ち、患者の倫理的配慮も含めて、臨地実習施設の臨床指導者にも協力を依頼した。この技術ノートは、各学生が達成目標についての意識を高め、個々の臨地実習を通して経験を積み重ね、技術習得に努力することをねらいとしたものである。また、教員にとっても個々の学生が、経験していない技術は何か、この病棟で実施可能なことは何かなどをを知る資料でもあった。

今回は、16年度に活用した「学生用技術ノート」が、看護実践能力を高めるために、有効な手段であったかを評価する目的で、学生用技術ノートを使用していない14・15年度学生の看護技術習得状況アンケートの結果（在り方検討会1グループが実施）と比較したので報告する。

II 方法

1) 調査方法

当校、看護師養成3年課程の16年度卒業年次学生60名を対象とした。各臨地実習終了時に「学

生用技術ノート」自己評価欄を記入し、最終実習終了後に提出されたものと、在り方検討会1グループが実施した、平成14・15年度学生看護技術の習得状況の実態アンケート調査³⁾と比較した。回収率は92% (55名)である。14 (15) 年度技術項目数は85項目で、16年度は周産期援助技術を含め88項目であったが、技術項目が異なる項目は比較の対象から除外し、比較可能な55項目に絞った (表1 参照)。

2) 学生への配布

3年次4月に行なわれる実習オリエンテーション時に、目的や記入方法について説明し配付した。

3) 調査期間

平成16年4月～平成16年12月

4) 倫理的配慮

最終実習終了時に、本学学生の技術到達度の傾向をみることに、今後の用紙の改善に使用したい旨を掲示をし、協力をお願いした。結果は統計処理されて個人のプライバシーは守られること、提出は個人の自由意志であること、実習評価とは関係のないことも説明に加えた。

5) 分析方法

到達水準の変化と、自ら体験する機会の変化との両面から優位差を検定した。

- ①到達水準は、14 (15) 年度アンケートと16年度では区分が異なるため、「単独でできる」を3、「指導監督のもとで実施できる」を2とし15年度の単独ではできないが経験したものを含めた。そして「見学した」を1、「見学する機会がなかった」を0として、比較のための点数化とした。
- ②体験する機会の変化は、「体験できた」を1とし、「体験なし(見学含む)」を0とした。SPSS ver.10にて記述統計をし、①②の有差は独立サンプルのT検定で求めた。

III 結果

看護技術の習得状況の詳細は別表の通りであり、4区分のうち一番高いパーセントを塗りつぶしをしてあるが、これらをもみても16年度に14項目が左に移動しており到達水準があがっていることがわかる。16年度が、14年度・15年度どちらの年度より到達水準が優位にあがった項目(「指導監督のもとで実施できる」ものが「単独でできる」というように到達水準の上があった項目)は、55項目中16項目であった。また、自ら体験の機会が優位に出た項目は、6項目であった。これらの項目は到達水準も上がり経験も増えた項目である。14年度のみとの比較では項目数はさらに増加する。逆に経験の機会が減少したものは、救命救急技術項目や創傷管理技術であった (表2 参照)。

2年続けて到達水準が上がった16項目は、食事援助技術2項目(食事介助、栄養状態・体液電解質バランス査定)、排泄援助技術2項目(自然排尿・排便援助、失禁ケア)、活動休息援助技術3項目(歩行・移動の介助・移送、体位交換、入眠・睡眠の援助)、呼吸循環を整える技術1項目(体温調節)、症状・生体管理技術1項目(身体計測・フィジカルアセスメント)、感染

表1 14(15)年度・16年度技術項目対比表

		15年度 85項目		16年度 75項目 + 産産期13項目		対比可能な共通項目 55		
大項目	項目	項目内容の違いにより比較不能	大項目	項目	項目内容の違いにより比較不能			
環境調整技術	1 療養生活環境調整		与薬の技術	43 薬理作用 (16年度追加項目)	●			
	2 ベッドメイキング			44 薬物療法 (16年度追加項目)	●			
	3 リネン交換			45 経口・外用薬の与薬方法 (15年度項目ごと別立て)	●			
食事援助技術	4 食事介助			46 皮下・筋肉内注射(15年度は注射法)	●			
	5 経管栄養法(注入)			47 皮下・静脈内注射の方法(15年度は注射法)	●			
	6 栄養状態・体液電解質バランスの査定			48 点滴静脈内注射・中心静脈栄養の管理 (15年度項目ごと別立て)	●			
	7 食生活支援			49 輸血の管理				
排泄援助技術	8 自然排尿・排便援助			救命救急技術	50 救急法 (16年度追加項目)	●		
	9 便器・尿器の使い方(病状に合わせて)				51 意識レベルの把握			
	10 排便				52 気道確保			
	11 オムツ交換		53 人工呼吸					
	12 失禁ケア		54 救命救急の技術 (16年度追加項目)		●			
	13 膀胱内留置カテーテル法		55 閉鎖式心マッサージ					
	14 洗腸		56 止血					
	15 導尿		57 バイタルサインの観察					
活動・休息援助技術	16 排尿困難時の援助		症状・生体管理技術	58 身体計測・フィジカルアセスメント				
	17 ストーマ造設者のケア			59 症状・病態の観察 (16年度追加項目)	●			
	18 歩行・移動の介助・移送 (車椅子・ストレッチャー)			60 検体の採取と扱い方(採尿・尿検査)				
	19 関節可動域訓練・廃用症候群予防 (15年度項目ごと別立て)	●		61 検体の採取と扱い方(採血・血糖検査) (15年度項目別立て)	●			
	20 体位交換			62 バルストオキシメーター				
	21 入眠・睡眠の援助			63 心電図モニター				
	22 遊び・学習 (16年度追加項目)	●		64 12誘導心電図 (16年度追加項目)	●			
清潔・衣生活援助技術	23 安静		65 スパイロメーター (15年度のみ)	●				
	24 入浴介助		66 胃カメラ (15年度のみ)	●				
	25 部分浴(足浴・陰部ケア・手浴) (15年度項目ごと別立て)	●	67 気管支鏡 (15年度のみ)	●				
	26 清拭・洗髪 (15年度項目ごと別立て)	●	68 腰椎穿刺 (15年度のみ)	●				
	27 口腔ケア		69 骨髄穿刺 (15年度のみ)	●				
	28 整容		感染予防の技術	70 スタンダードプリコーション				
29 更衣交換など衣生活支援		71 洗浄・消毒 (15年度項目別立て)		●				
呼吸・循環を整える技術	30 酸素吸入療法			72 無菌操作				
	31 気管内挿管 (15年度のみ)	●		73 医療廃棄物管理				
	32 吸引 (15年度鼻腔・口腔・気管内の3項目に別立て)	●	安全管理の技術	74 療養生活の安全確保				
	33 気管内加湿法			75 転倒・転落・外傷予防				
	34 体位ドレナージ			76 医療事故予防				
	35 体温調整			77 リスクマネージメント (15年度のみ)	●			
36 呼吸理学療法 (16年度追加項目)	●	78 自己の安全を守る技術(16年度追加項目)		●				
創傷管理技術	37 包帯法			安全確保の技術	79 体位保持			
	38 創傷処置		80 電法等身体安楽促進ケア					
	39 褥瘡予防ケア		81 リラクゼーション(呼吸法)					
	40 褥瘡アセスメント (15年度のみ)	●	82 指圧					
	41 褥瘡処置 (15年度のみ)	●	83 マッサージ					
	42 ドレナージ		周産期の援助技術		84~89 13項目	●		
保健指導技術(運動療法も含む) 97					●			

表2 平成14・15・16年度共通項目の比較

到達目標レベル点数：単独でできる3・指導監督した2・見学1・なし0 体験点数：体験した1・しない0

大項目	項目	到達目標	80%達成結果	14年度と16年度		15年度と16年度	
				到達目標レベルによる優位差	自ら体験したかによる優位差	到達目標レベルによる優位差	自ら体験したかによる優位差
環境調整技術	1 療養生活環境調整	1	○	★★			
	2 ベッドメーカーキング	1	○				
	3 リネン交換	1	○	★★			
食事援助技術	4 食事介助	1	○	★★		★★	
	5 経管栄養法(注入)	2	×	★★	☆		
	6 栄養状態・体液電解質バランスの査定	1	○	★★	☆	★★	
	7 食生活支援	※		★★	☆☆		
排泄援助技術	8 自然排便・排便援助	1	○	★★	☆☆	★★	
	9 便器・尿器の使い方(病状に合わせて)	2	×				
	10 排便	3	○				
	11 オムツ交換	1	×	★★	☆☆		
	12 失禁ケア	1	×	★	☆☆	★★	☆
	13 膀胱内留置カテーテル法	3	○				
	14 洗腸	3	×				
	15 導尿	3	×				
	16 排便困難時の援助	※					
17 ストーマ造設者のケア	3	×					
活動・休息援助技術	18 歩行・移動の介助(移送車椅子・ストレッチャー)	2	○	★★		★★	
	19 体位変換	1	○	★★		★★	
	20 入眠・睡眠の援助	1	×	★★	☆☆	★★	☆☆
	21 安静	※		★			
清潔・衣生活援助技術	22 入浴介助	2	○				
	23 口腔ケア	1	○	★★			
	24 整容	1	○				
	25 寝衣交換など衣生活支援	1	○			★★	
	26 酸素吸入療法	1	×	★			
呼吸・循環を整える技術	27 気管内加湿法	1	×			15★★	15☆☆
	28 体位ドレナージ	2	×				
	29 体温調整	1	○	★★	☆	★★	
創傷管理技術	30 包帯法	3	×			★	
	31 創傷処置	1	×	★★	☆☆		
	32 褥瘡予防ケア	1	×	★★	☆☆		
	33 ドレナージ	3	×		14☆☆	15★★	
与薬の管理	34 輸血の管理	3	×				
救命救急の技術	35 意識レベルの把握	3	○				
	36 気道確保	3	×		14☆☆		15☆☆
	37 人工呼吸	3	×		14☆☆		
	38 閉鎖式心マッサージ	3	×	14★★	14☆☆		
	39 止血	3	×		14☆☆		
症状・生体管理技術	40 バイタルサインの観察	1	○				
	41 身体計測・フィジカルアセスメント	1	○	★★		★★	
	42 尿体の採取と扱い方(採尿・尿検査)	1	×				
	43 バルスオキシメーター	1	○	★			
	44 心電図モニター	3	○	★★			
感染予防の技術	45 スタンダードプリコーション	1	○	★★	☆☆	★★	☆☆
	46 無菌操作	3	○				
	47 感染症薬物管理	1	○	★★	☆☆	★★	☆☆
安全管理の技術	48 療養生活の安全確保	1	○	★★	☆	★★	
	49 転倒・転落・外傷予防	1	○	★★	☆☆	★★	
	50 医療事故予防	※		★			
安全確保の技術	51 体位保持	1	○	★★	☆	★★	
	52 嚥法等身体安楽促進ケア	1	○	★★	☆☆	★★	☆☆
	53 リラクゼーション(呼吸法)	1	×				
	54 指圧	※					
	55 マッサージ	1	○	★★	☆	★★	☆☆

★★☆☆ P>0.01 ★☆☆ P>0.05

予防の技術 2 項目(スタンダードプリコーション、医療廃棄物管理)、安全管理の技術 2 項目(療養生活の安全管理技術、転倒・転落・外傷予防)、安全確保の技術 3 項目(体位保持、罨法等身体安促進ケア、マッサージ)であった。このうち経験率も上がった項目は、失禁ケア、入眠・睡眠の援助、スタンダードプリコーション、医療廃棄物管理、罨法等身体安促進ケア、マッサージであった。(図 1・2 参照)

これらの16項目のうち15項目が、本学の到達目標 1「単独でできる」のものであり、到達目標 2「指導監督のもとで実施できる」という項目は歩行・移動の介助・移送の 1 項目のみであった。

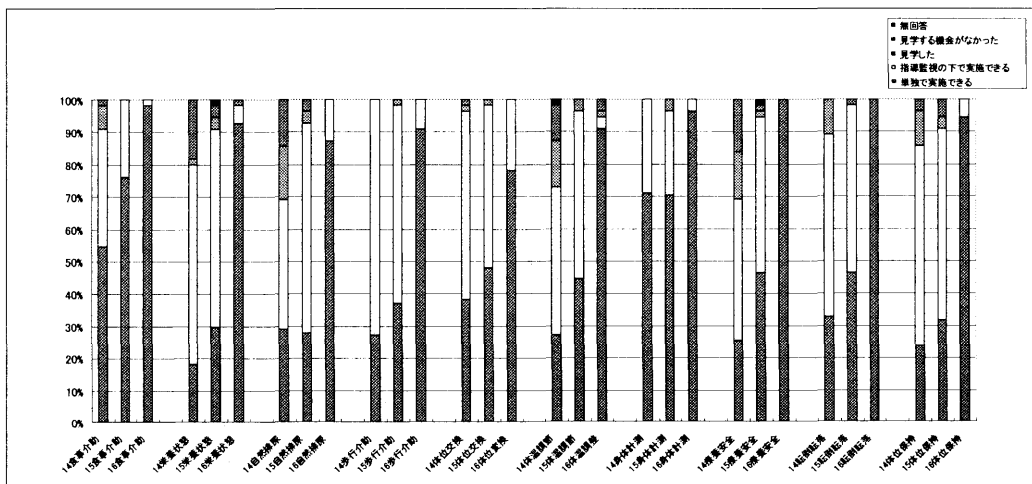


図 1 到達水準が優位に上がった項目

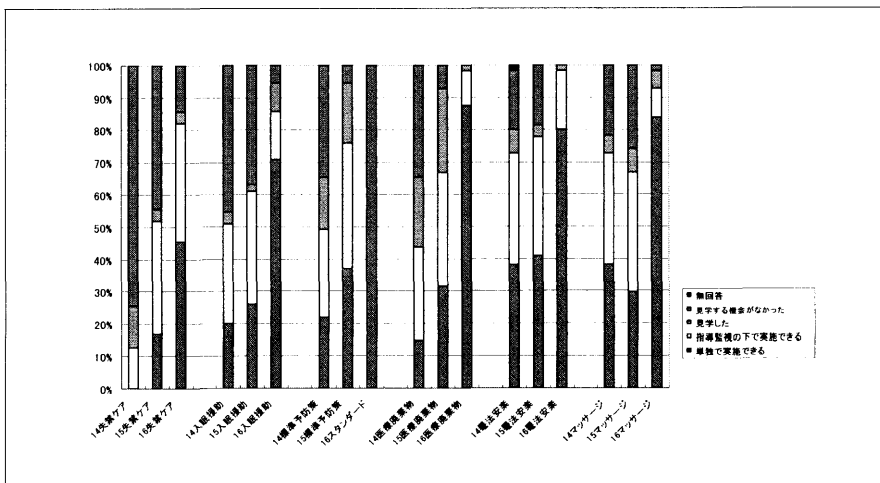


図 2 到達水準および経験機会が上がった項目

IV 考察

到達水準の上があった16項目中15項目は、単独でできると目標が設定されているものである。無免許の学生が、実施可能な範囲は、日常生活における基本的な生活行動・健康状態の観察・初歩的な感染防止などであり、今回到達水準が上がった項目もこの範疇にある。看護教育の在り方に関する検討会報告をうけ、石井は『看護実践能力については、項目毎に、基本的なことは自立してできるレベルを求めるが、複雑な状況や高度な技術を要求実践、学生時代には十分にトレーニングが行えない事柄については、看護職者の元で行えるというように、卒業後に習得することを念頭に達成度が示された。⁴⁾』と述べているが、この基本的項目に一致する。また、日常生活の援助技術の実施は、教員でも学生とともに実施できる技術であり、診療補助技術のように臨床の看護師の直接指導が必要条件でないことや、患者への身体的侵襲が伴いにくいことも要因となっている。経験率の下がったものに、救命救急技術の4項目（気道確保、人工呼吸、閉鎖式心マッサージ・止血）があるが、これらは前もって見学を組むことができるものではなく、偶発性伴うものであるので、経験率比較の対象にはなれない。他の技術項目の気道内加湿やドレナージに関しては見学などの機会を設定することは可能と考える。

以下「学生用技術ノート」が有用性について振り返ってみたい。

技術の向上は学生が目的意識を持つことから始まる。「学生用技術ノート」という形あるものを通して、学生と教員の関わりが大切になってくる。学生の達成目標の捉え方は、到達目標に記載してある水準をクリアすればよいと考えており、見学できると目標があれば自ら実施しようとは思わない。それが最低目標であり、患者の状態から実施可能であること、指導者がつくので安全に実施できることなど説明し、学生個々が目標化を図る。これは、多くは実習初日の意識づけからはじまり、病棟の協力を得て、技術実施項目や回数の変化につながっていく。そこからみると、習得状況の調査方法は、14・15年度が臨地実習がすべて終わったときに、今まで行った看護技術を振り返って質問紙に答えたのに対し、16年度は原則として2週間の実習の終了都度「学生用技術ノート」に評価したというの大きな違いがある。学生が自ら経験した内容のため、認識違いは無いと推察するが、16年度の方が技術に対して意識的に強化していたといえる。

小林の臨地実習での学生の看護技術習得頻度と自信度との調査⁵⁾によると、4つの特徴的なパターンが見られたという。(A)実施回数が多く自信レベルが高いパターンで、ベッドメイキング、検温で本学の学生も16年度には100%が単独でできている。(B)は、実施回数は少ないが自信レベルが高いパターンで、今回有意差がでた項目では、オムツ交換、環境整備、歩行・移動の介助・移送、体位保持などであり、対象に適した方法要求されるが、1回ごとに工夫していくことが可能な技術といえる。(C)のパターンは実施回数が多いが自信レベルが低いパターンで、有意差がでたのは、自然排尿・排便援助、マッサージ、ガウンテクニック（スタンダードブリーク）であるが、援助の量・質ともに重視される項目である。(D)の実施回数が少なく自信レベルも低いパターンの項目は、有意差がでた技術項目はなかった。どちらにしても経験回数や提供する技術の質が患者の反応により評価を受けることになり、学生の単独でできるという自信につながっていくと考えられる。

看護師養成校には、卒業時までの看護実践能力の到達目標とその到達度に対し責任があり、実施した教育の質を保証しなければならない。看護師国家試験はどちらかという知識力を測るものと考えられるが、技術実践を通して、知識と手の技術が如何につながっていくのか体験

してもらいたいと考える。そのためにも、臨地実習に役立つ学内演習でなければならないし、実習で体験が難しい技術は卒業前までに学内で習得できることが必要となる。技術教育が、教員全体で全体で取り組む有用性はここにもある。具体的に言い換えると、「学生用技術ノート」を通して①共通認識がとれるので、現場との協力体制がとりやすい、②各領域が演習なども含めて講義内容に反映しやすい、③ノートから評価できるので、教員間で改善点が明確化しやすいなどがある。

まとめ

「学生用技術ノート」に卒業時までの到達目標を示し、基礎看護実習から持たせて実習に臨ませることは、学生個々に技術習得が自分の努力により達成されることを意識化させ、自己の実践能力を身につけるために目標を持って積極的に取り組むことができる。さらに、実習終了時に評価することで、次の実習での目標もできることになる。他方、教員や指導者は各領域での技術習得状況をふまえて、学生と目標を共有し、学生が技術の習得ができるような状況や環境を整えることができるなど、「学生用技術ノート」を用いての技術習得への取り組みは効果的であると評価してよい。

しかし、「単独でできる」は、あくまで学生の認識である。日常の学生の生活行動をみていると、行動価値の違いを感じる。清潔・不潔の線をどこで引くのか、ベッド上いる人の視点になってどこまで考えられるのか、使用した物品を片付ける人の身になって処理できるのかなど、まだまだ、気づいてもらいたいことが多いことも事実である。そのためには、ケアを行う基本事項にもとづいて、学生と共に評価をする必要性を感じている。

最後に、忙しい業務の中で、「学生用技術ノート」への記入チェック、入力、集計などにご協力していただいた教員の皆様に深く感謝いたします。

引用・参考文献

- 1) 日本看護協会『2002年度新卒看護師の“看護基本技術”に関する実態調査報告書』2002
- 2) 文部科学省看護教育のあり方に関する検討会『大学における看護実践能力の充実に向けて』pp3-19 文部科学省高等教育局医学教育課 2002
- 3) 大場みゆき他「看護師養成課程における“看護技術の習得状況”の実態 (1)－学生へのアンケート調査から－」『静岡県立大学短期大学部研究紀要第18号』pp13-21 2004
- 4) 石井邦子著「看護学教育の在り方に関する検討会 (第二次) を終えて」『看護教育』Vol.45 No.6 pp436 2004
- 5) 小林たつ子「臨地実習での学生の技術体験実施頻度と自信度から考える看護技術教育」『看護教員と実習指導者』Vol.2 No.2 pp4-13 2005

別表 業前における看護技術共通項目の習得状況 (平成14・15・16年度)

大項目	項目	年度	14年度 n=55 15年度 n=54 16年度 n=55									
			3: 単独でできる		2: 指導監督下でできる		1: 見学した		0: 見学の機会もなかった		無	
			n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
環境調整技術	療養生活環境調整	14年度	36	65.5	15	27.3	0	0.0	2	3.6		
		15年度	47	87.0	7	13.0	0	0.0	0	0.0		
		16年度	55	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
	ベッドメイキング	14	52	94.5	3	5.5	0	0.0	0	0.0		
		15	52	96.3	2	3.7	0	0.0	0	0.0		
		16	55	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
	リネン交換	14	45	81.8	10	18.2	0	0.0	0	0.0		
		15	49	90.7	4	7.4	0	0.0	0	0.0	1	1.9
		16	55	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
食事援助技術	食事介助	14	30	54.5	20	36.4	4	7.3	1	1.8		
		15	41	75.9	13	24.0	0	0.0	0	0.0		
		16	54	98.2	1	1.8	0	0.0	0	0.0		
	経管栄養法(注入)	14	4	7.3	11	20.0	29	52.7	11	20.0		
		15	5	9.3	17	31.5	26	48.1	6	11.1		
		16	5	9.1	26	47.3	23	41.8	1	1.8		
	栄養状態・体液電解質バランスの査定	14	10	18.2	34	61.8	1	1.8	10	18.2		
		15	16	29.6	33	60.0	2	3.7	2	3.7		
		16	51	92.7	3	5.5	0	0.0	1	1.8		
	食生活支援	14	3	5.5	15	27.3	19	34.5	17	30.9		
		15	4	7.4	29	53.7	15	27.8	4	7.4		
		16	24	43.6	16	29.1	1	1.8	14	25.5		
排泄援助技術	自然排尿・排便援助	14	16	29.1	22	40.0	9	16.4	8	14.5		
		15	15	27.8	35	64.8	2	3.7	2	3.7		
		16	48	87.3	7	12.7	0	0.0	0	0.0		
	便器・尿器の使い方(病状に合わせて)	14	8	14.5	23	41.8	8	14.5	16	29.1		
		15	13	24.1	23	42.6	6	11.1	11	20.4	1	1.9
		16	22	40.0	12	21.8	14	25.5	7	12.7		
	摘便	14	0	0.0	4	7.3	47	85.5	4	7.3		
		15	0	0.0	11	20.3	37	68.5	6	11.1		
		16	1	1.8	11	20.0	41	74.5	2	3.6		
	オムツ交換	14	16	29.1	26	47.3	12	21.8	0	0.0	1	1.8
		15	32	59.3	19	35.2	2	3.7	1	1.9	1	1.8
		16	43	78.2	12	21.8	0	0.0	0	0.0		
	失禁ケア	14	0	0.0	7	12.7	7	12.7	41	74.5		
		15	9	16.7	19	35.2	2	3.7	24	44.4		
		16	25	45.5	20	36.4	2	3.6	8	14.5		
	膀胱内留置カテーテル法	14	0	0.0	7	12.7	45	81.8	3	5.5		
		15	0	0.0	11	20.3	40	74.1	3	5.6		
		16	0	0.0	4	7.3	49	89.1	2	3.6		
	浣腸	14	2	3.6	3	5.5	36	65.5	14	25.5		
		15	1	1.9	9	16.7	20	37.0	24	44.4		
		16	0	0.0	10	18.2	31	56.4	14	25.5		
	導尿	14	3	5.5	5	9.1	31	56.4	16	29.1		
		15	0	0.0	4	7.4	31	57.4	19	35.2		
		16	0	0.0	2	3.6	30	54.5	23	41.8		
排尿困難時の援助	14	0	0.0	6	10.9	6	10.9	43	78.2			
	15	1	1.9	11	20.3	5	9.3	37	68.5			
	16	2	3.6	7	12.7	12	21.8	34	61.8			
ストーマ造設者のケア	14	1	1.8	3	5.5	11	20.0	40	72.7			
	15	1	1.9	5	9.3	18	33.3	30	55.6			
	16	0	0.0	1	1.8	23	41.8	31	56.4			
活動・休息援助技術	歩行・移動の介助・移送(車椅子・ストレッチャー)	14	15	27.3	40	72.7	0	0.0	0	0.0		
		15	20	37.0	33	61.1	1	1.9	0	0.0		
		16	50	90.9	5	9.1	0	0.0	0	0.0		
	体位変換	14	21	38.7	32	58.2	1	1.8	1	1.8		
		15	26	48.1	27	50.0	1	1.9	0	0.0		
		16	43	78.2	12	21.8	0	0.0	0	0.0		
	入眠・睡眠の援助	14	11	20.0	17	30.9	2	3.6	25	45.5		
		15	14	25.9	19	35.2	1	1.9	20	37.0		
		16	39	70.9	8	14.5	5	9.1	3	5.5		
	安静	14	20	36.4	16	29.1	8	14.5	10	18.2		
		15	27	50.0	16	29.6	6	11.1	3	5.6	2	3.7
		16	41	74.5	5	9.1	2	3.6	7	12.7		

清潔・衣生活援助技術	入浴介助	14	13	23.5	40	72.7	1	1.8	1	1.8				
		15	8	14.8	44	81.5	0	0.0	2	3.7				
		16	16	29.1	39	70.9	0	0.0	0	0.0				
	口腔ケア	14	29	52.7	21	38.7	1	1.8	4	7.3				
		15	37	68.5	14	25.9	2	3.7	1	1.9				
		16	52	94.5	2	3.6	1	1.8	0	0.0				
	整容	14	45	81.8	7	12.7	1	1.8	2	3.6				
		15	45	83.3	6	11.1	1	1.9	2	3.7				
		16	54	98.2	0	0.0	1	1.8	0	0.0				
	寝衣交換など衣生活支援	14	43	78.2	10	18.2	0	0.0	2	3.6				
		15	28	51.9	25	46.3	1	1.9	0	0.0				
		16	54	98.2	1	1.8	0	0.0	0	0.0				
呼吸・循環を整える技術	酸素吸入療法	14	0	0.0	13	23.5	34	61.8	8	14.5				
		15	2	3.7	21	38.9	24	44.4	7	13.0				
		16	9	16.4	12	21.8	33	60.0	1	1.8				
	気管内加湿法	14	7	12.7	17	30.9	18	32.7	13	23.5				
		15	19	35.2	16	29.6	11	20.4	8	14.8				
		16	7	12.7	10	18.2	29	52.7	9	16.4				
	体位ドレナージ	14	2	3.6	24	43.6	16	29.1	13	23.5				
		15	4	7.4	22	40.7	15	27.8	13	24.1				
		16	9	16.4	13	23.5	23	41.8	10	18.2				
	体温調整	14	15	27.3	25	45.5	8	14.5	6	10.9	1	1.8		
		15	24	44.4	28	51.9	2	3.7	0	0.0				
		16	50	90.9	2	3.6	1	1.8	2	3.6				
創傷管理技術	包帯法	14	5	9.1	15	27.3	12	21.8	23	41.8				
		15	1	1.9	10	18.5	7	13	35	64.8	1	1.9		
		16	4	7.3	10	18.2	27	49.1	14	25.5				
	創傷処置	14	0	0.0	9	16.4	39	70.9	7	12.7				
		15	1	1.9	25	46.3	24	44.4	4	7.4				
		16	6	10.9	30	54.5	19	34.5	0	0.0				
	褥瘡予防ケア	14	6	10.9	23	41.8	23	41.8	3	5.5				
		15	15	27.8	24	44.4	13	24.1	2	3.7				
		16	30	54.5	16	29.1	9	16.4	0	0.0				
	ドレナージ	14	1	1.8	16	29.1	21	38.7	17	30.9				
		15	2	3.7	21	38.9	18	33.3	11	20.4	2	3.7		
		16	0	0.0	1	1.8	37	67.3	17	30.9				
与薬の管理	輸血の管理	14	0	0.0	2	3.6	20	36.4	33	60.0				
		15	0	0.0	1	1.9	18	33.3	35	64.8				
		16	2	3.6	0	0.0	25	45.5	28	50.9				
救命救急技術	意識レベルの把握	14	6	10.9	19	34.5	7	12.7	23	41.8				
		15	6	11.1	26	48.1	3	5.6	19	35.2				
		16	18	32.7	8	14.5	23	41.8	6	10.9				
	気道確保	14	7	12.7	10	18.2	8	14.5	30	54.5				
		15	3	5.6	7	13.0	13	24.1	31	57.4				
		16	0	0.0	1	1.8	30	54.5	24	43.6				
	人工呼吸	14	7	12.7	9	16.4	7	12.7	32	58.2				
		15	0	0.0	4	7.4	9	16.7	41	75.9				
		16	0	0.0	1	1.8	24	43.6	30	54.5				
	閉鎖式心マッサージ	14	5	9.1	9	16.4	2	3.6	38	69.1	1	1.8		
		15	0	0.0	3	5.6	1	1.9	50	92.6				
		16	0	0.0	1	1.8	1	1.8	53	96.4				
止血	14	3	5.5	12	21.8	9	16.4	31	56.4					
	15	2	3.7	8	14.8	17	31.5	27	50.0					
	16	0	0.0	3	5.5	31	56.4	21	38.7					
症状・生体管理技術	バイタルサインの観察	14	53	96.4	2	3.6	0	0.0	0	0.0				
		15	49	90.7	5	9.3	0	0.0	0	0.0				
		16	55	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0				
	身体計測・フィジカルアセスメント	14	39	70.9	16	29.1	0	0.0	0	0.0				
		15	38	70.4	14	25.9	2	3.7	0	0.0				
		16	53	96.4	2	3.6	0	0.0	0	0.0				
	検体・検尿	14	6	10.9	13	23.5	24	43.6	12	21.8				
		15	4	7.4	13	24.0	16	29.6	21	38.9				
		16	13	23.5	15	27.3	16	29.1	11	20.0				
	パルスオキシメーター	14	39	70.9	4	7.3	10	18.2	2	3.6				
		15	48	88.9	3	5.6	1	1.9	2	3.7				
		16	52	94.5	0	0.0	2	3.6	1	1.8				
心電図モニター	14	2	3.6	8	14.5	31	56.4	14	25.5					
	15	1	1.9	17	31.5	25	46.3	11	20.4					
	16	5	9.1	14	25.5	35	63.6	1	1.8					

感染予防の技術	スタンダードプリコーション	14	12	21.8	15	27.3	9	16.4	19	34.5		
		15	20	37.0	21	38.9	10	18.5	3	5.6		
		16	55	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
	無菌操作	14	6	10.9	25	45.5	13	23.5	11	20.0		
		15	8	14.8	26	48.1	16	29.6	4	7.4		
		16	10	18.2	18	32.7	26	47.3	1	1.8		
	医療廃棄物管理	14	8	14.5	16	29.1	12	21.8	19	34.5		
		15	17	31.5	19	35.2	14	25.9	4	7.4		
		16	48	87.3	6	10.9	1	1.8	0	0.0		
安全管理の技術	療養生活の安全確保	14	14	25.5	24	43.6	8	14.5	9	16.4		
		15	25	46.3	26	48.1	1	1.9	1	1.9	1	1.9
		16	55	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
	転倒・転落・外傷予防	14	18	32.7	31	56.4	6	10.9	0	0.0		
		15	25	46.3	28	51.9	0	0.0	1	1.9		
		16	55	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
	医療事故予防	14	4	7.3	20	36.4	14	25.5	17	30.9		
		15	10	18.5	23	42.6	10	18.5	11	20.4		
		16	27	49.1	8	14.5	7	12.7	13	23.5		
安全確保の技術	体位保持	14	13	23.5	34	61.8	6	10.9	2	3.6		
		15	17	31.5	32	59.3	2	3.7	3	5.6		
		16	52	94.5	3	5.5	0	0.0	0	0.0		
	電法等身体安楽促進ケア	14	21	38.7	19	34.5	4	7.3	10	18.2	1	1.8
		15	22	40.7	20	37.0	2	3.7	10	18.5		
		16	44	80.0	10	18.2	1	1.8	0	0.0		
	リラクゼーション(呼吸法)	14	15	27.3	16	29.1	4	7.3	19	34.5	1	1.8
		15	13	24.1	24	44.4	3	5.6	14	25.9		
		16	22	40.0	10	18.2	9	16.4	14	25.5		
	指圧	14	14	25.5	9	16.4	3	5.5	29	52.7		
		15	9	16.7	11	20.3	2	3.7	32	59.3		
		16	23	41.8	3	5.5	6	10.9	23	41.8		
	マッサージ	14	21	38.7	19	34.5	3	5.5	12	21.8		
		15	16	29.8	20	37.0	4	7.4	14	25.9		
		16	46	83.6	5	9.1	3	5.5	1	1.8		